



一般財団法人 医療関連サービス振興会
Japan Health Enterprise Foundation

一般財団法人医療関連サービス振興会様

4月 月例セミナー

医療関連サービス事業の DX化における現状と課題

2026年4月30日



合同会社
土巳宏
TOMIHIRO LLC.

合同会社 土巳宏
CEO 小林 土巳宏

現在の活動

合同会社 土巳宏

社現場のDX支援
医療・介護福祉・障がい福

民

国家プロジェクト
政策協議メンバー

PHRワーキングメンバー
医療DX推進委員

官

日本医療大学
助教

社DXの教育・人材育成
医療・介護福祉・障がい福

産

後期博士課程
北大・保健科学院

専門研究家（研究・学術）
医療DX・介護福祉DXの

学

#	法人	病院名	病床数	病棟機能
1	医療法人溪仁会	手稻溪仁会病院	660床	一般570床+ICU16床+救命救急30床+SCU15床+NICU6床+GCU6床+専門病床27床
2		定山溪病院	280床	一般101床+療養133床+地域包括ケア46床
3		札幌西円山病院	603床	障害者施設等一般516床+回復期リハビリテーション87床
4		溪仁会リハビリテーション病院	155床	回復期リハビリテーション病棟
5	医療法人徳洲会	湘南鎌倉総合病院	669床	一般659床+精神10床
6	医療法人横浜博萌会	西横浜国際総合病院	188床	一般59床+地域包括医療52床+回復期リハビリテーション41床+地域包括ケア37床
7	医療法人横浜平成会	平成横浜病院	183床	一般50床+回復期リハビリテーション97床+地域包括医療36床
8	医療法人和会	武蔵台病院	99床	地域包括医療52床+回復期リハビリテーション47床
9	医療法人聖心会	南古谷病院	137床	一般57床+地域包括ケア28床+障害者52床
10	医療法人純徳会	田中病院	131床	一般131床
11	特定医療法人博仁会	第一病院	193床	一般83床+回復期リハビリテーション47床+特殊疾患47床+地域包括ケア16床
12	東日本電信電話株式会社	関東病院	594床	一般544床+精神50床

#	団体名	#	団体名
1	公益社団法人 全日本病院協会	15	公益社団法人 日本理学療法士協会
2	一般財団法人 日本医療教育財団	16	一般社団法人 日本作業療法士協会
3	公益社団法人 日本精神科病院協会	17	一般社団法人 日本言語聴覚士協会
4	一般財団法人 医療関連サービス振興会	18	新潟医療福祉大学
5	一般社団法人 PHR普及推進協議会 (PHRC)	19	学校法人片柳学園 東京工科大学
6	内閣府	20	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校
7	厚生労働省	21	株式会社ニチイ学館
8	デジタル庁	22	株式会社ソラスト
9	総務省	23	株式会社スタッフサービス・メディカル
10	社会保険診療報酬支払基金	24	株式会社日本教育クリエイト
11	東和薬品株式会社	25	パーソナルテンプスタッフ株式会社
12	TIS株式会社	26	メディカル・データ・ビジョン株式会社 (MDV)
13	株式会社インテック	27	楽天モバイル株式会社
14	株式会社シーエスアイ	28	株式会社アイテック

「合同会社 土巳宏」主催：医療・介護福祉 DX人材育成プログラム(E-ラーニング講座)		基礎編 (全5回)	応用編 (全5回)	受講者数
1	施設管理者(理事長・病院長・施設長)向け DX人材育成プログラム	○	○	127名
2	病院事務長向け DX人材育成プログラム	○	○	151名
3	看護管理職向け DX人材育成プログラム	○	○	1,875名
4	リハビリテーション専門職(PT・OT・ST)向け DX人材育成プログラム	○	○	1,744名
5	医療・介護福祉連携職(地域連携専門職)向けDX人材育成プログラム	○	○	963名
6	医療事務職向けDX人材育成プログラム	○	○	2,838名
7	介護事務職向けDX人材育成プログラム	○	○	2,556名
			2025年度 受講者 合計	10,254 名

D X

とは

一般論では

IT人材の不足とリテラシーの低さ

- デジタル技術を理解・活用できる人材が少ない。
- 社員(職員)がITツールを使いこなせず、教育コストや負担が増える。

変化への抵抗・従来のやり方への固執

- 「今のやり方で問題ない」という意識が強く、デジタル化に抵抗がある。
- 紙文化から脱却できず、ペーパーレス化が進まない。

目的の不明確さと成果が見えない

- 「DX化そのもの」が目的化し、何を改善したいのかが不明確。
- 具体的なコスト削減や業務効率化の成果が数字として出ない。

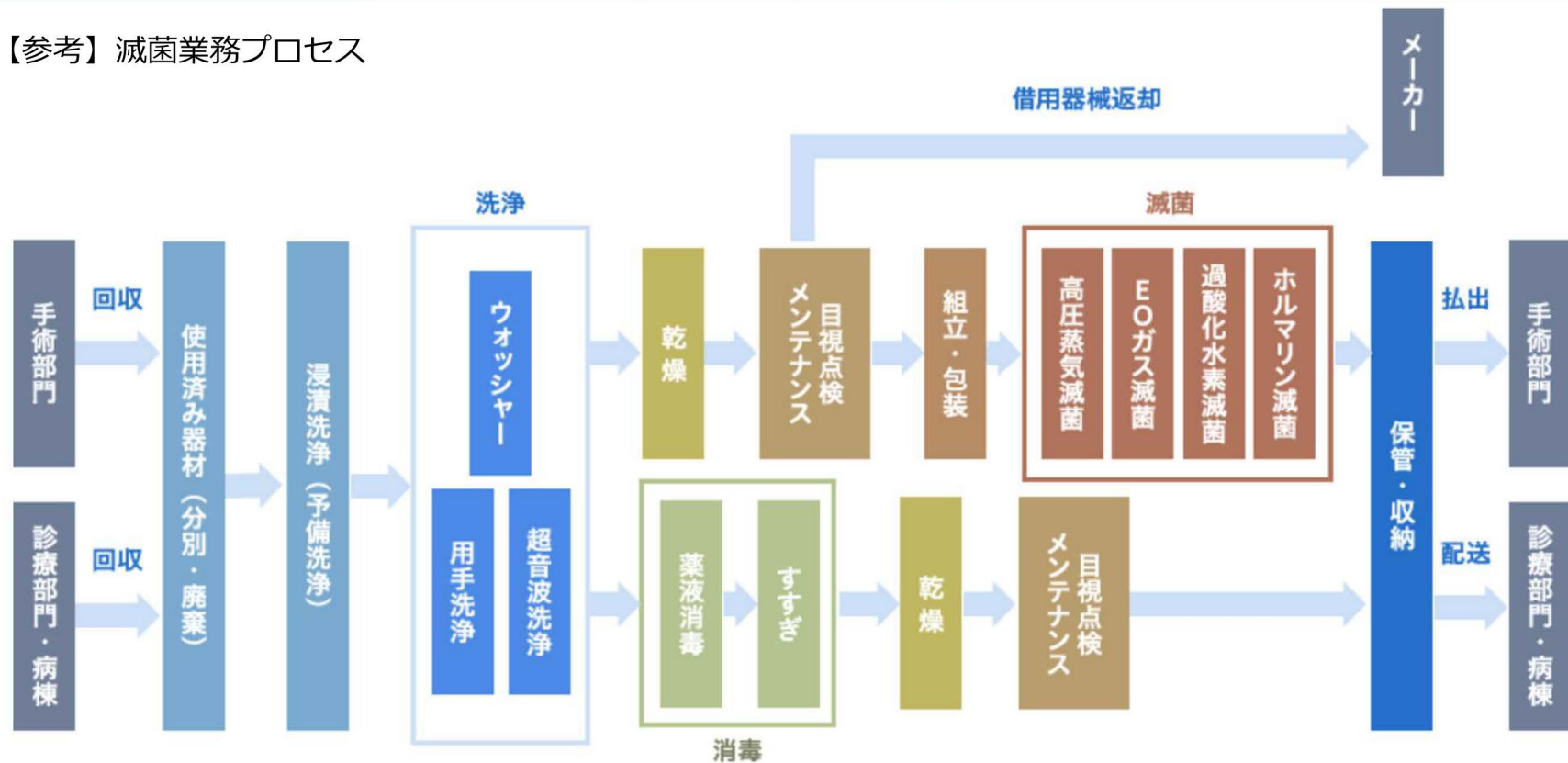
予算の確保とシステム投資の難しさ

- 初期費用やランニングコストが高い。
- 既存システムが古く(レガシーシステム)、刷新に多額のコストがかかる。

現場と経営層の意識のズレ

- トップダウンでツールを入れても、現場のニーズに合わず活用されない。
- 現場が「自分ごと」として捉えていない。

【参考】滅菌業務プロセス



【参考】病院清掃ロボット



ソフトバンクロボティクス株式会社 ホームページより

DXの本質論

【参考】病院給食サービス

従来の給食運営



手入力・紙保管

電話・FAX発注
目視検品
手書き帳票etc...



給食DXでの運営

セントラルキッチンで一括対応

厨房での作業



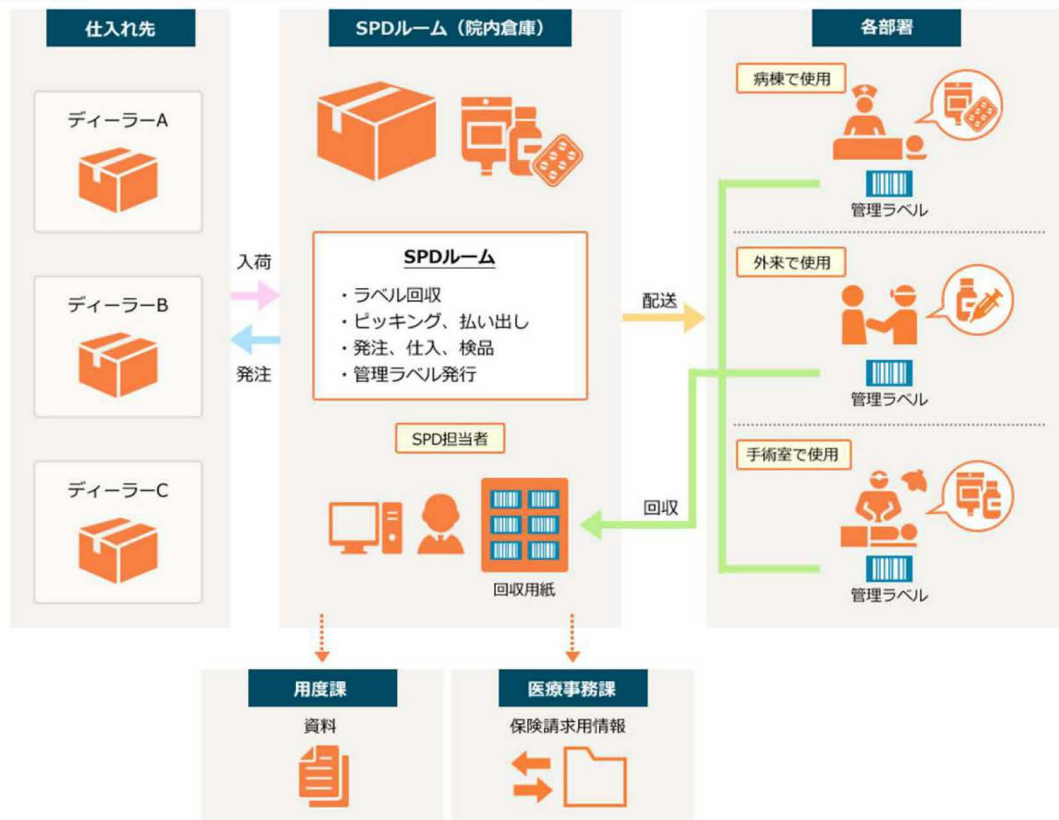
自動化・データ管理

かんたん発注
検品システム
帳票管理etc...



D Xの本質論

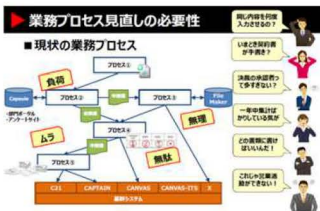
【参考】SPDサービス



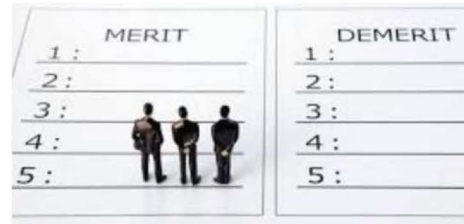
システム化・IoT化



ワークフロー見直し し・手順見直し



無理・無駄の改善





日本の医療関連サービス

DXの課題

(1) 滅菌消毒医療関連サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 滅菌物の管理が紙台帳や目視確認中心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ RFIDやバーコードを用いた器材管理システムの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滅菌器材の所在・状態・履歴がリアルタイムに可視化される。 ■ トレーサビリティが確保され、感染対策と監査対応が高度化される。 ■ 院内外で一貫した滅菌管理が可能となり、安全性と効率性が向上する。
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 器材の所在、回収、滅菌履歴の追跡が困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 滅菌履歴、回収履歴、使用履歴のデジタル記録化。 	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 院内・院外委託先との情報共有がリアルタイムでできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 院外委託先と共有できるクラウド型滅菌管理システムの導入。 	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 滅菌工程の記録が属人的で監査対応に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ IoT機器による温度・湿度・圧力などの自動記録。 	

(2) 寝具類洗濯医療関連サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ リネン類の在庫数や使用状況が正確に把握できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ RFIDタグ付きリネン管理システムの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リネン在庫が適正化され、紛失や不足が減少する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 紛失、過剰発注、過剰回収が発生しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 病棟別・患者別の利用実績のデータ化。 ✓ AIによる使用量予測と発注最適化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用実績に基づく適正在庫管理とコスト削減が実現する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 病棟ごとの利用実績が把握できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 洗濯委託先とのデータ連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 洗濯・回収・供給のサイクル全体が効率化される。

(3) 患者等給食医療関連サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 食事指示変更が紙や電話連絡中心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子カルテ連携型の給食管理システムの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 患者ごとの適切な食事提供がリアルタイムに実現する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ アレルギー、嚥下、栄養制限等の情報共有ミスが起こる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 患者情報、食事指示、アレルギー情報の自動連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配膳ミスや食事故が減少する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 配膳ミス、食札ミス、残食データ未活用が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ タブレットやバーコードを活用した配膳確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 残食率低下、患者満足度向上、栄養管理強化につながる。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 院内厨房と院外委託先との情報連携が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AIによる残食分析と栄養改善提案。 	

(4) 院内清掃医療関連サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 清掃状況の確認が紙報告や口頭連絡中心である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ モバイル端末による清掃実施記録システムの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 清掃実施状況がリアルタイムに可視化される。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 清掃漏れや実施記録漏れが発生しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 清掃場所ごとのQRコード管理。 ✓ 感染対策エリアの重点清掃履歴をデータ化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 清掃漏れや感染対策上のリスクが減少する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 感染対策エリアの清掃履歴管理が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 清掃ロボットやIoTセンサーの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 院内環境の安全性と患者満足度が向上する。

(5) 検体検査医療関連サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 検体搬送や受付時の人的ミスが起こる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ バーコード管理による検体トレーサビリティ強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検体取り違えや報告漏れが大幅に減少する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 検査進捗状況が見えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 検査依頼から結果報告までの一元管理。 ✓ 電子カルテや検査システムとの自動連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検査進捗や結果確認が迅速化される。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 院内検査部門と外部検査センターとの情報連携が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AIによる異常値検知や再検査提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医師・看護師・検査部門間の連携が強化される。

(6) 医療用ガス供給設備保守点検サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設備点検記録が紙ベースで管理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ IoTセンサーによるガス残量・圧力監視。 ✓ クラウド型設備保守管理システムの導入。 ✓ 異常時の自動通知機能の実装。 ✓ 点検履歴のデジタル化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療ガス供給設備の異常を早期に検知できる。 ■ 保守点検の漏れや遅延が減少する。 ■ 安定供給と安全管理が高度化される。 	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガス残量や圧力異常の把握が遅れる。 			
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 緊急時対応が属人的になりやすい。 			

(7) 医療機器保守点検サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 医療機器の保守履歴や使用履歴が分散している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療機器管理システム（ME機器管理システム）の導入。 ✓ IoTによる稼働状況・故障予兆監視。 ✓ 点検時期の自動通知機能。 ✓ 医療機器貸出・返却のデジタル管理。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療機器の稼働状況、保守状況がリアルタイムに把握できる。 ■ 故障による医療停止リスクが減少する。 ■ 機器管理の効率化と安全性向上が実現する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 故障予兆の把握が難しい。 		
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 機器管理が属人的で、点検漏れが起こる。 		

(8) 医療廃棄物処理

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 医療廃棄物の排出量、保管量、処理状況が可視化されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子マニフェストの導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療廃棄物処理の履歴が一元管理される。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ マニフェスト管理が紙中心で煩雑。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 廃棄物容器へのQRコード・RFID活用。 ✓ 排出量分析による削減活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法令遵守と監査対応が容易になる。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 不適切処理や法令違反リスクがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 委託先とのデータ共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物削減とコスト適正化が進む。

(9) 医療事務

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 紙カルテ、紙伝票、FAX運用が残存している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子カルテ、Web問診、予約システムとの連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療事務職員の事務負担が軽減される。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ レセプト点検や請求業務が属人的。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ RPAによるレセプト点検、請求処理自動化。 ✓ AIチャットボットによる問い合わせ対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 請求精度向上、返戻減少、時間外労働削減が実現する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 問い合わせ対応や受付業務に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ OCRによる紙書類のデータ化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 患者待ち時間短縮と患者満足度向上につながる。

(10) 院内物品管理 (SPD)

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 在庫管理が手作業中心で、欠品や過剰在庫が発生する。 ➤ 使用実績が把握できず、適正在庫管理が困難。 ➤ 発注、納品、棚卸し作業に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ RFID・バーコードを用いた在庫管理システム導入。 ✓ AIによる需要予測と自動発注。 ✓ 電子カルテや手術室システムとの連携。 ✓ 自動棚卸し機能の導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適正在庫が維持され、欠品・過剰在庫が減少する。 ■ 物流コストと棚卸し負担が削減される。 ■ 医療現場が必要な物品を適切なタイミングで利用できる。

(11) 在宅医療支援サービス

DXの課題	課題解決案	DXのゴールイメージ
<ul style="list-style-type: none">➤ 在宅患者の状態把握が訪問時中心でリアルタイム性に欠ける。➤ 医師、看護師、薬剤師、介護職間の情報共有が不十分。➤ 搬送履歴、在宅酸素機器の点検履歴が分散管理されている。	<ul style="list-style-type: none">✓ オンライン診療、遠隔モニタリングシステムの導入。✓ 多職種連携クラウドシステムの構築。✓ 在宅酸素機器や搬送車両のIoT管理。✓ PHRや電子カルテ共有サービスとの連携。	<ul style="list-style-type: none">■ 在宅患者の状態をリアルタイムに把握できる。■ 多職種間で情報共有が円滑に行われる。■ 在宅医療の安全性、継続性、患者満足度が向上する。

まとめ

デジタルの神経網： 11の業務領域を変革する スマートホスピタル構想

対象領域：医療施設における11のコア業務・サービス

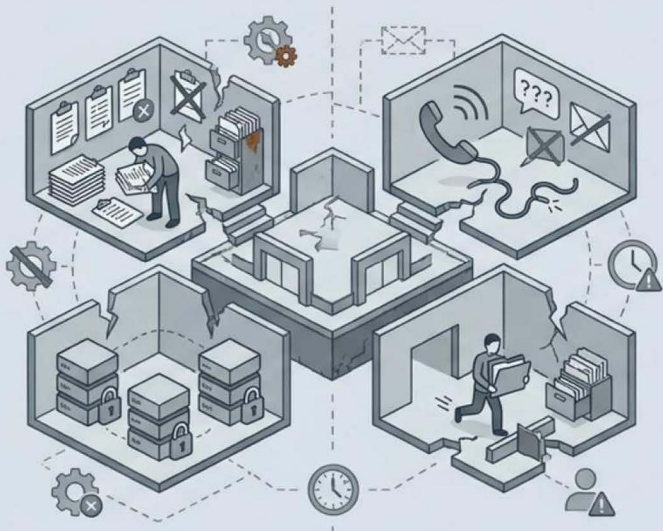
アプローチ：IoT、AI、RFID、クラウドを活用したデジタルトランスフォーメーション（DX）

目的：アナログなサイロ化からの脱却と、統合的かつ自律的な病院運営の実現



アナログなサイロ化から、統合されたデジタルの神経網へ

現状のフリクシオン



現状の課題：多くの医療機関では、滅菌、清掃、物流、事務などの各業務が個別の紙ベースや属人的なプロセスで分断されており、深刻な非効率とヒューマンエラーのリスクを抱えています。

スマートホスピタルの青写真



DXがもたらす変革：本構想では、最新のDX技術（RFID、IoTセンサー、AI分析、クラウド統合）を神経網のように張り巡らせることで、11の独立した業務を「4つの戦略的柱」に統合し、リアルタイムでの可視化と最適化を実現します。

スマートホスピタルを構築する4つの戦略的柱

第1の柱：ロジスティクスとサプライチェーン

Logistics & Supply Chain

- ・院内物品管理SPD
- ・寝具類洗濯
- ・医療廃棄物処理

第2の柱：臨床支援と患者体験

Clinical & Patient Support

- ・検体検査
- ・患者等給食
- ・在宅医療支援

第3の柱：施設・環境インフラ

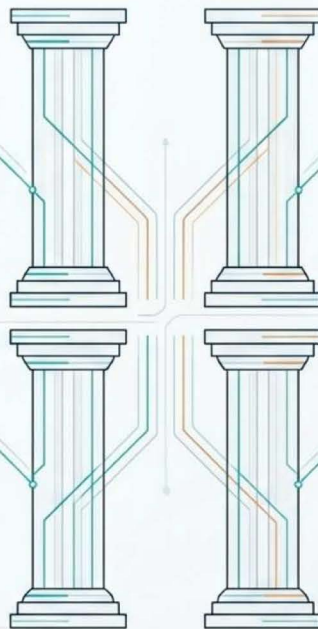
Facility & Infrastructure

- ・滅菌消毒
- ・医療機器保守点検
- ・医療ガス供給設備
- ・院内清掃

第4の柱：事務・経営基盤

Back-Office & Administration

- ・医療事務



第1の柱：ロジスティクスと サプライチェーンの最適化

院内を循環する「モノ（物品、リネン、
廃棄物）」の流れを完全に可視化する。

手作業による在庫管理や追跡から脱却し、
AIとRFIDによる自律的なサプライチェーン
を確立する。

院内物品管理SPD：手作業からAI主導の適正在庫へ

DXの課題



- 在庫管理が手作業中心で、欠品や過剰在庫が発生する。
- 使用実績が把握できず、適正在庫管理が困難。
- 発注、納品、棚卸し作業に時間がかかる。

解決案



- **RFID・バーコード**を用いた在庫管理システム導入。
- **AI**による**需要予測**と**自動発注**。
- **電子カルテ**や**手術室システム**との連携。
- **自動棚卸し機能**の導入。

ゴールイメージ



- 適正在庫が維持され、欠品・過剰在庫が減少する。
- 物流コストと棚卸し負担が削減される。
- 医療現場が必要な物品を適切なタイミングで利用できる。

寝具類洗濯：RFIDが実現するリネンサイクルの完全な可視化

DXの課題



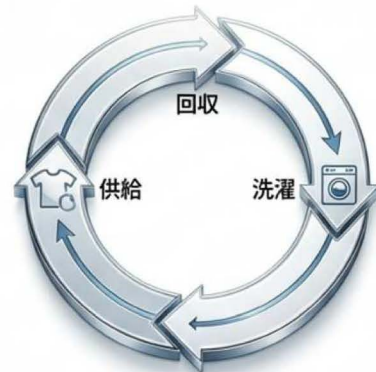
- ・リネン類の在庫数や使用状況が正確に把握できない。
- ・紛失、過剰発注、過剰回収が発生しやすい。
- ・病棟ごとの利用実績が把握できない。

解決案



- ・RFIDタグ付きリネン管理システムの導入。
- ・病棟別・患者別の利用実績のデータ化。
- ・AIによる使用量予測と発注最適化。
- ・洗濯委託先とのデータ連携。

ゴールイメージ



- ・リネン在庫が適正化され、紛失や不足が減少する。
- ・使用実績に基づく適正在庫管理とコスト削減が実現する。
- ・洗濯・回収・供給のサイクル全体が効率化される。

医療廃棄物処理：トレーサビリティの確保とコンプライアンスの高度化

DXの課題



- ・医療廃棄物の排出量、保管量、処理状況が可視化されていない。
- ・マニフェスト管理が紙中心で煩雑。
- ・不適切処理や法令違反リスクがある。

解決案



- ・電子マニフェストの導入。
- ・廃棄物容器へのQRコード・RFID活用。
- ・排出量分析による削減活動。
- ・委託先とのデータ共有。

ゴールイメージ



- ・医療廃棄物処理の履歴が一元管理される。
- ・法令遵守と監査対応が容易になる。
- ・廃棄物削減とコスト適正化が進む。

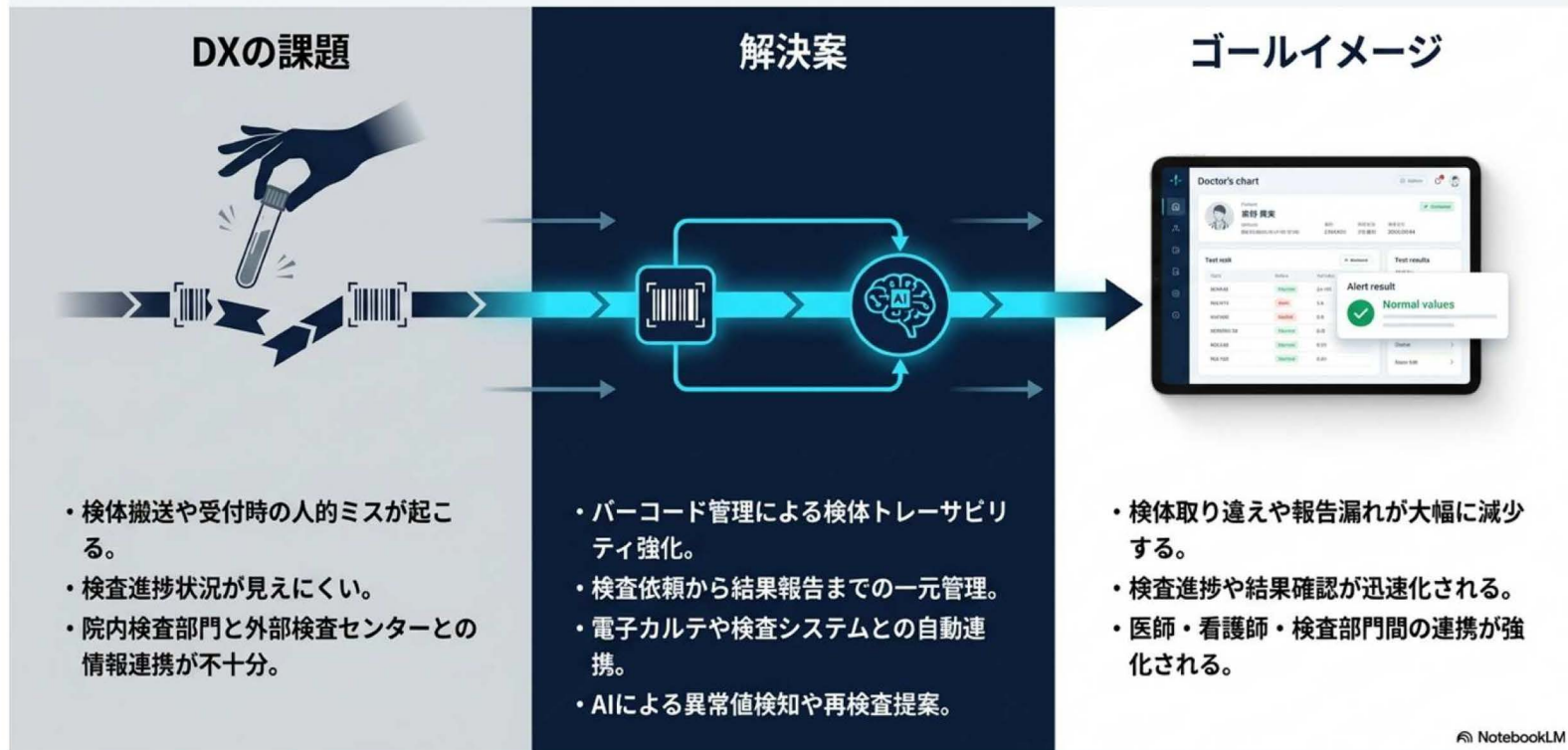
第2の柱： 臨床現場の支援と 患者体験の向上

「データ」を架け橋とし、検査部門、栄養管理、そして在宅医療までをシームレスに連携。

ヒューマンエラーを徹底排除し、個々の患者に最適化された安全な医療サービスを提供する。



検体検査：バーコードとAIによるシームレスな検査体制



患者等給食：電子カルテ連携が生み出す個別最適化された栄養管理

DXの課題



- ・食事指示変更が紙や電話連絡中心である。
- ・アレルギー、嚥下、栄養制限等の情報共有ミスが起こる。
- ・配膳ミス、食札ミス、残食データ未活用が発生する。
- ・院内厨房と院外委託先との情報連携が弱い。

解決案



- ・電子カルテ連携型の給食管理システムの導入。
- ・患者情報、食事指示、アレルギー情報の自動連携。
- ・タブレットやバーコードを活用した配膳確認。
- ・AIによる残食分析及び栄養改善提案。

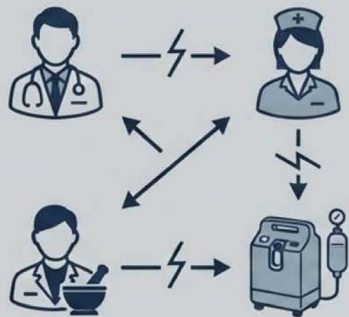
ゴールイメージ



- ・患者ごとの適切な食事提供がリアルタイムに実現する。
- ・配膳ミスや食事故が減少する。
- ・残食率低下、患者満足度向上、栄養管理強化につながる。

在宅医療支援：クラウドとIoTが結ぶ多職種連携のハブ

DXの課題



- ・在宅患者の状態把握が訪問時中心でリアルタイム性に欠ける。
- ・医師、看護師、薬剤師、介護職間の情報共有が不十分。
- ・搬送履歴、在宅酸素機器の点検履歴が分散管理されている。

解決案



- ・オンライン診療、遠隔モニタリングシステムの導入。
- ・多職種連携クラウドシステムの構築。
- ・在宅酸素機器や搬送車両のIoT管理。
- ・PHRや電子カルテ共有サービスとの連携。

ゴールイメージ

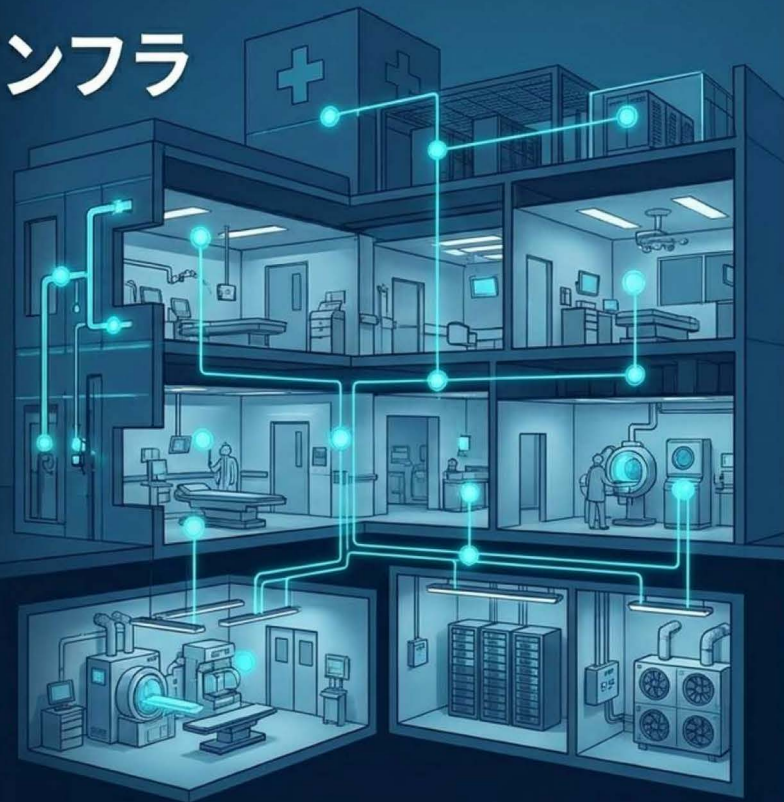


- ・在宅患者の状態をリアルタイムに把握できる。
- ・多職種間で情報共有が円滑に行われる。
- ・在宅医療の安全性、継続性、患者満足度が向上する。

第3の柱：施設・環境インフラ の安全性と持続性

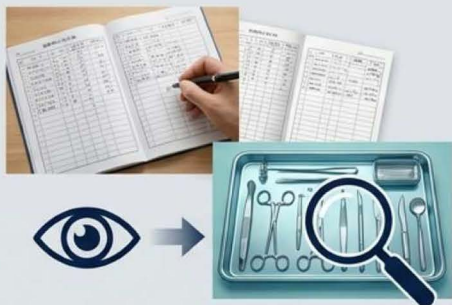
病院の機能を根底から支える物理的
インフラストラクチャーのスマート化。

事後対応（リアクティブ）から、
armプラインデータを駆使へ。
事後対応（リアクティブ）から、
IoTとセンサーデータを駆使した
予兆・予防型（プロアクティブ）の
施設管理へシフトする。



滅菌消毒：IoTとクラウドが保証する院内外の一貫した品質管理

DXの課題



- 滅菌物の管理が紙台帳や目視確認中心である。
- 器材の所在、回収、滅菌履歴の追跡が困難。
- 院内・院外委託先との情報共有がリアルタイムでできない。
- 滅菌工程の記録が属人的で監査対応に時間がかかる。

解決案



- RFIDやバーコードを用いた器材管理システムの導入。
- 滅菌履歴、回収履歴、使用履歴のデジタル記録化。
- 院外委託先と共有できるクラウド型滅菌管理システムの導入。
- IoT機器による温度・湿度・圧力などの自動記録。

ゴールイメージ



- 滅菌器材の所在・状態・履歴がリアルタイムに可視化される。
- トレーサビリティが確保され、感染対策と監査対応が高度化される。
- 院内外で一貫した滅菌管理が可能となり、安全性と効率性が向上する。

医療機器保守点検：事後対応からIoTによる予兆検知へ

DXの課題



- ・医療機器の保守履歴や使用履歴が分散している。
- ・故障予兆の把握が難しい。
- ・機器管理が属人的で、点検漏れが起こる。

解決案



- ・医療機器管理システム（ME機器管理システム）の導入。
- ・IoTによる稼働状況・故障予兆監視。
- ・点検時期の自動通知機能。
- ・医療機器貸出・返却のデジタル管理。

ゴールイメージ



- ・医療機器の稼働状況、保守状況がリアルタイムに把握できる。
- ・故障による医療停止リスクが減少する。
- ・故障による医療停止力が減少する。
- ・機器管理の効率化と安全性向上が実現する。

医療ガス供給設備：センサー監視による安定供給と早期異常検知

DXの課題



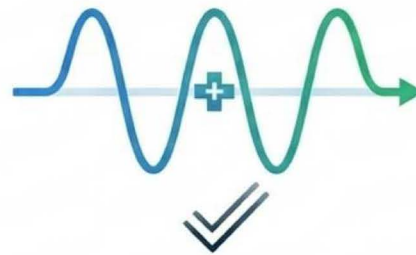
- ・設備点検記録が紙ベースで管理されている。
- ・ガス残量や圧力異常の把握が遅れる。
- ・緊急時対応が属人的になりやすい。

解決案



- ・IoTセンサーによるガス残量・圧力監視。
- ・クラウド型設備保守管理システムの導入。
- ・異常時の自動通知機能の実装。
- ・点検履歴のデジタル化。

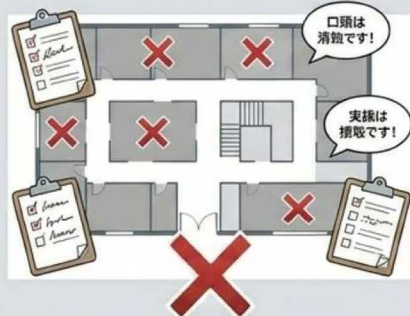
ゴールイメージ



- ・医療ガス供給設備の異常を早期に検知できる。
- ・保守点検の漏れや遅延が減少する。
- ・安定供給と安全管理が高度化される。

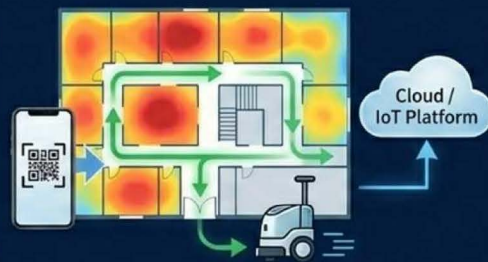
院内清掃：データ駆動型のアプローチによる確実な感染対策

DXの課題



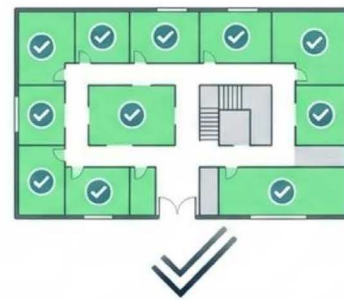
- ・清掃状況の確認が紙報告や口頭連絡中心である。
- ・清掃漏れや実施記録漏れが発生しやすい。
- ・感染対策エリアの清掃履歴管理が不十分。

解決案



- ・モバイル端末による清掃実施記録システムの導入。
- ・清掃場所ごとのQRコード管理。
- ・感染対策エリアの重点清掃履歴をデータ化。
- ・清掃ロボットやIoTセンサーの活用。

ゴールイメージ



- ・清掃実施状況がリアルタイムに可視化される。
- ・清掃漏れや感染対策上のリスクが減少する。
- ・院内環境の安全性と患者満足度が向上する。

第4の柱:事務・経営基盤の 自動化と効率化

医療スタッフの背後で膨大な時間を奪う「ペーパーワーク」と「ルーティン業務」の根本的改革。

RPAとAIを駆使し、事務処理を極限まで自動化することで、真の経営効率化と患者サービスの向上を実現する。

医療事務：RPAとAIが解放する事務スタッフのポテンシャル

DXの課題



- 紙カルテ、紙伝票、FAX運用が残存している。
- レセプト点検や請求業務が属人的。
- 問い合わせ対応や受付業務に時間を要する。

解決案



- 電子カルテ、Web問診、予約システムとの連携。
- RPAによるレセプト点検、請求処理自動化。
- AIチャットボットによる問い合わせ対応。
- OCRによる紙書類のデータ化。

ゴールイメージ



- 医療事務職員の事務負担が軽減される。
- 請求精度向上、返戻減少、時間外労働削減が実現する。
- 患者待ち時間短縮と患者満足度向上につながる。




DXテクノロジー・マトリクス：11の業務を貫く技術の生態系

		RFID/バーコード	IoT/センサー	AI/データ分析	クラウド/システム連携	RPA/自動化
Pillar 1	院内物品管理SPD	●	●		✓	✓
	寝具類洗濯	●	●		✓	
	医療廃棄物処理	●	●		✓	
Pillar 2	検体検査		●	✓	✓	✓
	患者等給食		●		✓	
	在宅医療支援			✓	✓	
Pillar 3	滅菌消毒	●			✓	✓
	医療機器保守		●	●	✓	
	医療ガス設備		●	●	✓	
Pillar 4	院内清掃				✓	
	医療事務			●	✓	✓

横断的価値の創出: 各業務を個別にデジタル化するのではなく、基盤となるテクノロジー（IoT、クラウド、AI）を共有することで、部門を超越した強力なシナジーと投資対効果（ROI）を生み出します。

次世代医療の青写真：すべてが繋がるスマートホスピタルの実現

11の変革から、1つの統合された未来へ

-  ・安全性と品質の担保: あらゆるデータがリアルタイムで追跡可能になり、ヒューマンエラーやコンプライアンス違反のリスクを根絶します。
-  ・持続可能な医療運営: 徹底した業務の可視化と自動化により、コスト削減とスタッフの労働環境改善を同時に実現します。
-  ・患者中心の医療: バックエンド業務のフリクションを無くすことで、医療従事者が本来注力すべき「患者へのケア」に専念できる環境を提供します。

デジタルの神経網が、あなたの施設を
次世代のスマートホスピタルへと進化させます。



TOMIHIRO

— FACILITY FOR STRONGER SERVICES —

全業種共通のDXのゴールイメージ

- 1 紙・FAX・電話中心の運用からの脱却を目指す
- 2 情報のリアルタイムな共有実現を目指す
- 3 人手(働き手)不足(人口減は避けられない)を補う省力化・自動化を目指す
- 4 データを蓄積し、経営改善や業務改善の活用実現を目指す
- 5 DXの推進・導入検討を機に、医療安全、感染対策、法令遵守のさらなる強化を目指す
- 6 患者(住民)満足度、職員満足度、経営効率を向上させることを目指す
- 7 医療DX令和ビジョン2030に対応した持続可能な医療関連サービス体制を構築することは必須

医療関連サービス各社様にとって、DXの推進・導入検討を大きな契機として、自社内外、契約先の医療機関・介護福祉施設のDX化ならびにDX推進体制の構築が一層進展されることを心より願っております!!

アンケートQR
(任意回答)



会社概要

小林 土巳宏

合同会社 土巳宏
CEO



経歴

- 1992年～
ITインテグレーターとして活動
数多くのビジネス系Webサービスをプロデュース
- 2009年～
医療・介護福祉業界に転身
病院事務長、情報セキュリティ責任者、常任理事を歴任
- 2021年～
株式会社 MEMORI 代表取締役就任(2026年3月31日 辞任)
- 2024年～
合同会社 土巳宏 創業(CEO就任)
- 2026年～
日本医療大学 ヒューマンデザイン学部 DXマネジメント学科 助教
室蘭工業大学大学院 後期博士課程 先端電子情報工学分野(10月入学予定)
- 公益財団法人 全日本病院協会
2023年度・2024年度 医療DX人材育成プログラム プログラム企画+専任講師
2025年度 医療DX人材育成プログラム プログラム企画+専任講師
- 政府提言
2023年 3月 「インターネットとの安全な接続とDX化を可能にする電子カルテのWEB化」に関する提言
2024年10月 「病院の情報システムのクラウド化」に関する提言
2025年 7月 「標準型電子カルテのモダン化実装におけるバンダーロックイン解除」に関する提言
「モダン化電子カルテにおける高額化避減」に関する提言

Personal Information

- 新潟県新潟市中央区生まれ、北海道札幌市在住
- 一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会
2002年～2004年シーズン クラブ・ハスキーズ(旧 伊藤ハムクラブ)GM歴任
- プログラム言語
C,C#,C++,C++/CLI, COBOL,BASIC,Delphi,Go,Java,JavaScript,Objective-C,OpenGL,Perl,PHP,PostScript,Python,R,Rust,Visual Basic

Company Profile

社名 (商号)	合同会社 土巳宏 (法人番号 2230003002159)
代表者	CEO 小林 土巳宏
所在地	北海道札幌市本郷通5丁目南3番21-203号
取引銀行	三井住友銀行<0009> 富山支店<501> 普通 1168770 GMOあおぞらネット銀行<0310> 法人営業部<101> 普通 1900003

- 事業内容
- ・ 医療介護福祉ソリューションの開発・運営管理支援
 - ・ 革新的ソリューションの提供
 - ・ デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進支援
 - ・ 若者サポートと社会貢献
 - ・ 医療・介護DX実践講座 (E-ラーニング)

- パートナー
- ・ メディカル・データ・ビジョン株式会社 (MDV)
 - ・ 株式会社ハートビーツ
 - ・ 株式会社ビーブリッド
 - ・ 株式会社Enjin
 - ・ 株式会社N-BRIDGE
 - ・ 楽天モバイル株式会社

- 支援先
- ・ 公益社団法人 全日本病院協会
 - ・ 一般財団法人 日本医療教育財団
 - ・ 一般財団法人 医療関連サービス振興会
 - ・ 医療法人 湊仁会グループ
 - ・ 医療法人 湊仁会 札幌西円山病院
 - ・ 医療法人 瑞頌会 尾張温泉かえ病院
 - ・ 特定医療法人 博仁会 博仁会第一病院
 - ・ 医療法人 徳洲会 湘南鎌倉総合病院
 - ・ 医療法人 和会 武蔵台病院
 - ・ 医療法人 聖心会 南古谷病院
 - ・ 医療法人 横浜博明会 西横浜国際総合病院
 - ・ 学校法人 日本医療大学
 - ・ 内閣府
 - ・ 厚生労働省
 - ・ デジタル庁
 - ・ 総務省
 - ・ 社会保険診療報酬支払基金 (支払基金)
 - ・ 東和薬品株式会社
 - ・ T I S株式会社

北海道札幌市
北海道札幌市
愛知県蟹江町
群馬県高崎市
神奈川県鎌倉市
埼玉県日高市
埼玉県川越市
神奈川県横浜市
北海道札幌市

<https://www.tomihiro.biz/>



<https://www.medicaldx.academy/>

<https://www.mdv.co.jp/>
<https://heartbeats.jp/>
<https://www.bibrid.co.jp/>
<https://www.y-enjin.co.jp/>
<https://n-bridge.net/>
<https://corp.mobile.rakuten.co.jp/>

<https://www.ajha.or.jp/>
<https://www.jme.or.jp/>
<https://ikss.net/>
<https://www.kejinkai.com/iryou/>
<https://kejinkai.com/nishimaruayama/>
<https://www.kanie-hp.jp/>
<https://www.daiichi-hp.or.jp/>
<https://www.skgh.jp/>
<https://musashidai-hp.com/>
<https://www.minamifuruya.or.jp/>
<https://www.skgh.jp/>
<https://www.nishiyokohama.or.jp/>
<https://www.cao.go.jp/>
<https://www.jhu.ac.jp/>
<https://www.mhlw.go.jp/index.html>
<https://www.digital.go.jp/>
<https://www.soumu.go.jp/>
<https://www.ssk.or.jp/smph/index.html>
<https://www.towayakuhin.co.jp/>
<https://www.tis.co.jp/>

Medical and Welfare Profile

<p>医業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療法人 松徳会 松谷病院 医療法人社団 大和会 慶和病院 医療法人社団 洪泳会 <ul style="list-style-type: none"> 医療法人社団 双星会 みなみの星病院 NSGグループ 医療事業グループ 	<p>大阪府枚方市 埼玉県越谷市 東京都足立区</p> <p>富山県富山市 新潟県新潟市</p>	<p>40床 (療養) 156床 (急性期一般) ①156床(急性期一般) ② 91床(急性期一般・障がい) 40床 (地ケア・地域一般) 医療法人愛広会 医療法人泰庸会 医療法人社団共生会</p>	<p>https://www.matsutani.or.jp/ http://www.keiwa-hospital.com/ http://kousei-hosp.com/ https://www.daini-kousei-hosp.com/ https://toyama-souseikai.or.jp/minami/ https://www.nsg.gr.jp/list/#group-c_3</p>
<p>福祉業</p>	<ul style="list-style-type: none"> NSGグループ 福祉・介護事業グループ 	<p>新潟県新潟市</p>	<p>社会福祉法人愛宕福祉会 社会福祉法人あたご共生福祉会 社会福祉法人上越あたご福祉会 株式会社はあとふるあたご 株式会社ベスト・ケアー</p>	<p>https://www.nsg.gr.jp/blog/anshin/</p>
<p>地域支援 コンサル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社ケアコム 株式会社ヘルスケア・リレーションズ 	<p>東京都調布市 東京都調布市</p>	<p>病院内情報高度化基盤 地域医療・介護情報連携基盤</p>	<p>https://www.carecom.jp/ https://www.hcr.co.jp/</p>
<p>支援機関 (抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 天理よろづ相談所病院 近畿大学奈良病院 奈良県総合医療センター 済生会中和病院 宇陀市立病院 徳島大学病院 徳島県立中央病院 徳島赤十字病院 高知医療センター 	<p>奈良県天理市 奈良県生駒市 奈良県奈良市 奈良県桜井市 奈良県宇陀市 徳島県徳島市 徳島県徳島市 徳島県小松島市 高知県高知市</p>	<p>715床 518床 492床 320床 176床 692床 460床 405床 620床</p>	<p>https://www.tenriyorozu.jp/ https://www.med.kindai.ac.jp/nara/ http://www.nara-hp.jp/ https://chuwa-hp.jp/ https://udacity-hospital.jp/ https://www.tokushima-hosp.jp/ https://tph.pref.tokushima.lg.jp/ https://www.tokushima-med.jrc.or.jp/ https://www2.khsc.or.jp/</p>